

まちカド真夜中シンパシー

tea (てあ)

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

シャミ子と桃が夜中にメッセージを送ります。

目次

まちカド真夜中シンパシー

1

まちカド真夜中シンパシー

なんだか眠れなくてスマホをいじる。

幾度目かの寝返りを打つ。隣の良はすやすやと規則正しい寝息を立てている。

写真をスクロールする。良やみかんさんが写っているのは多いのに、桃がいるのはほとんどない。

ふとこの前撮った野良猫の写真に、桃がちらりと写っているのを見つけた。こちらを見て普段とは違う柔らかい表情をしている。これはレア!と拡大していると、桃からメッセージが来た。

〈起きてる?〉

行動を見透かされているような気がしてどきつとした。既読をつけないければ居留守みたいに寝たフリはできるけど、どうせ眠れないのだし、せつかくだから相手になってもらおう。

〈起きてますよ。どうしたんですか?〉

こちらの動揺を隠しつつ、先手を取って質問する。〈別に〉とか〈何でもない〉とか素っ気ない返事が来そう。

〈別に、何でもないけど、見られてる気がして〉

ぎよつとした。桃のじつとりした目で、こっちこそ見られているよな気がしてくる。

〈何言ってるんですか!自意識過剰ってやつですよ!〉

〈確かに、気持ち悪かったね……。シャミ子は何してるの?〉

まさか事実を伝える訳にはいかないので適当にはぐらかすことにする。

〈眠れなくてぼんやりしてました。桃は?〉

〈私も眠れなくて、シャミ子の写真見えた〉

えっ。と思わず声が漏れる。良が寝返りを打ってこっちを向くので、悪いことをしてるみたいにどきどきした。

私が桃の写真を見て、桃が私の写真を見てって、なんだか、何で、どうして――。

〈前と比べたらシェイプアップできてる。この調子で頑張ろうね〉

——やっぱり桃は筋肉少女だ。逆に安心してしまった。

〈寝る前に私の写真なんか見て、お望み通り夢に出てやろうか魔法少女！〉

ちよつとは魔族らしさを押ししておかないと忘れられそうなので言っておく。

返事が来ない。

待ってる間に良はまたこてんと寝返りを打った。

寝てしまったのかな。

元々静かだったはずなのに、急に夜が深くなったようで。

寂しいような、でもそろそろ眠れそうな……。

……と、うとうととしていたら返事が。

〈出てもいいよ〉

……何を言ってるんだ、まったく……このシャドウミストレすゆうここにかかれば……お前のゆめに入って……すきほうだいして……。

桃はスマホを投げ出して布団をすっぽりと被る。

暗闇でなければ彼女の耳まで真っ赤なことがよく分かるはずだ。

「……会えるかな」

ぼつりと呟くと、桃はまだ落ち着かない心臓をなだめながら、夢の中に潜り込んでいった。